

広告

企画・制作／北海道新聞旭川支社営業部

診療と研究の二刀流で新しい病院像を探る



慶友会吉田病院創設者の故・吉田威氏と現理事長の吉田良子氏の子息である吉田遼平医師が、昨年4月に同病院に常勤医師として着任されました。

呼吸器内科のプロフェッショナルとしてこれからどのように地域医療をけん引していくか、現在の研究テーマや着任までの経緯を含めて、北海道新聞旭川支社長の齊川誠太郎が吉田医師にお話を伺います。

齊川：そうして診療にも当たりながら大学院で研究もされるという呼吸器内科の道を歩み始めた後、ハーバードのダナ・ファーバー癌研究所に留学されたんですね。

吉田：10年くらい前に私が旭川医大に来た後に、抗がん剤の中でも「分子標的薬」という薬剤が出てきてがん治療にパラダイシフトがありました。点滴ではなく内服の抗がん剤で、特定の遺伝子背景を持った人には効果があり、それまでは3カ月から半年くらいだったのが場合によっては2年生きられる人が現れました。さらにその後2015年より本庶佑先生に始まる免疫の薬「免疫チェックポイント阻害薬」が登場し、5年以上生きられるケースも出てきました。

齊川：肺がん治療という外科的な手術や放射線などを想像しますが、内科的なアプローチには今どういうものがあるのでしょうか。

吉田：もともと父は息子の生き方を固定するような人ではありませんでした。しかし、父の肝臓がんの再発で余命が半年と宣告されたことがきっかけで私自身が旭川に戻ると決めたとき、唯一、決定事項として父から聞かれた内容が、旭川医大の呼吸器内科への入局でした。同時に、私に肺がんの道を提示してくれていたのですが、その結果尊敬できる上司（旭川医大 佐々木高明先生）に恵まれ、自分が心から打ち込める研究や臨床と出会うことができたことに感謝しています。

齊川：東京で研修医を終えて旭川に戻られた後は、旭川医科大学病院の呼吸器センター医師として診療に従事するのと同時に、同大学院に入学して肺がんの基礎研究も開始されたんですね。

吉田：父の病気を治すという思いが強い人ではないですが、父の再発で余命が半年と宣告されたことがきっかけで私自身が旭川に戻ると決めたとき、唯一、決定事項として父から聞かれた内容が、旭川医大の呼吸器内科への入局でした。同時に、私に肺がんの道を提示してくれていたのですが、その結果尊敬できる上司（旭川医大 佐々木高明先生）に恵まれ、自分が心から打ち込める研究や臨床と出会うことができたことに感謝しています。

齊川：約3年の留学を終え旭川に戻ってからは旭川医大呼吸器センターに勤務されていましたが、昨年4月にいよいよ吉田病院の常勤医師として着任されました。

吉田：旭川に30歳で戻ってくる自分に対し、慶友会に戻ると何年かかるかと父に聞かれた際、10年と答えたのですが、昨年1月にその40歳を迎えたことで次は自分を育ててくれた家族と慶友会に恩返しをしたい、と感じるようになったんです。そこで本気で職員と向き合い、自分からこの病院を良くしていきたいという気持ちで4月から働き始めました。

齊川：これまで旭川医大から週一回の非常勤で吉田病院に来ていたわけですが、常勤医師として見えるもの、感じるもの、違いはありますか。

吉田：週一回でこちらに来ていた時は、大学から送られてきたような限られた患者さんと、限られたスタッフとしか関わりがありませんでした。それが常勤医師として動けるとメディアを含めスタッフも十分に教育され素晴らしい環境で自分が働いていることに気がきました。その根底には両親が40年という長い時間で育んだホスピタリティの精神を感じることができました。そのため、自分は何かを変えるのではなく、職員がより良く働ける環境づくりを現実根拠しながら目指していけばよいと今は考えています。

齊川：以前からの科研費に加えて本年度から新たにAMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）と公益財団法人小林がん学術振興会との二つの研究助成費の取得がなかった。日本では基礎研究を臨床応用につなげるトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）が今後重要になります。その上でAMEDは製品開発などいかに早く患者さんに届けるかという社会実装を大事にしているものなんです。



齊川：呼吸器の専門医としてこの病院を目指すものをお聞かせください。

吉田：まずは慶友会に呼吸器科があると言われるような、特にながの分野では診断から治療、そして緩和につなげられるような機関を目指したいと考えています。そのため人員を確保し、数年後に大学との連携を密に図りながら、患者さん一人一人の人生に見合った精密医療を心掛けたらと思っています。また、地域医療に関しては、旭川のみならず道北の過疎化される地域も含めた医療圏で捉えていく必要があります。内科に強い民間病院を目指しながら、患者さんが慶友会に関わってからの人生を全うする最後の瞬間まで、尊厳を保って生きられるように一人一人に対して細やかなサポートをしていきたいと考えています。

齊川：研究と発信で新しい医療を生み出す舞台に

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

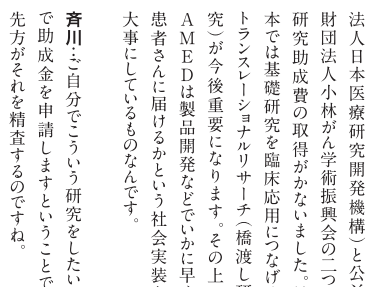
齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。



齊川：呼吸器の専門医としてこの病院を目指すものをお聞かせください。

吉田：まずは慶友会に呼吸器科があると言われるような、特にながの分野では診断から治療、そして緩和につなげられるような機関を目指したいと考えています。そのため人員を確保し、数年後に大学との連携を密に図りながら、患者さん一人一人の人生に見合った精密医療を心掛けたらと思っています。また、地域医療に関しては、旭川のみならず道北の過疎化される地域も含めた医療圏で捉えていく必要があります。内科に強い民間病院を目指しながら、患者さんが慶友会に関わってからの人生を全うする最後の瞬間まで、尊厳を保って生きられるように一人一人に対して細やかなサポートをしていきたいと考えています。

齊川：研究と発信で新しい医療を生み出す舞台に

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

Ryohei Yoshida

From Asahikawa and Japan out into the world

吉田遼平医師 プロフィール

2011年 日本大学医学部卒業 日本大学医学部附属板橋病院臨床研修医勤務
 2013年 旭川医科大学呼吸器センター 医師
 2018年 ハーバード大学 ダナ・ファーバー癌研究所 (David A. Barbie lab) 留学
 2021年 旭川医科大学呼吸器センター
 2023年 医療法人慶友会吉田病院医師 勤務 旭川医科大学 客員助教授兼任
 認定資格: 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医・日本内科学会認定内科医



聞き手:北海道新聞社 齊川誠太郎 旭川支社長

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

齊川：吉田医師の下、今後の吉田病院がますます発展していく、そんな未来を感じるお話でした。本日はありがとうございました。

